

建設コンサルタント業界では、従来の官公庁案件に加え、環境リスク評価や再生可能エネルギーなどの新事業・新市場への進出が加速しています。特に大手では約 8 割が取り組み、民需の拡大を図っています。浮体式洋上風力発電向けの地盤調査技術や、メタンガス容器「CubiTan」の海外展開など、先進的な取り組みも活発です。新事業はすでに業績に貢献しつつあり、エネルギー分野が成長の柱として注目されています。

【4/21・日経 XT】 ニュース 製造業で電気式蒸気ボイラーの需要増、30 年には 10 億円市場に 松田 千穂 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/02423/>

製造業での脱炭素化の一環として、電気式蒸気ボイラーの需要が拡大しています。富士経済の調査では、2030 年度の国内市場規模が 2024 年度比で 2.5 倍の 10 億円に成長すると予測されています。特に、電子部品や化学、食品などの業界でカーボンニュートラルへの意識が高まり、導入が進んでいます。さらに、電力の需給調整に活用される「上げ DR」のリソースとしての需要も期待されており、今後の市場拡大が見込まれます。

【4/21・日経 XT】 調査レポート 脱炭素・ネイチャーポジティブ 138 技術を分析、「GX ビジネス 事業創出・参入戦略」 日経クロステック

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/info/18/00055/041800014/>

日経 BP の調査レポート『GX ビジネス 事業創出・参入戦略』は、脱炭素とネイチャーポジティブに資する先端技術 138 種を独自に評価し、技術の成熟度や有望度を分析しています。GX は中長期的な経済成長を支える重要な潮流とされ、再エネ、CO₂回収、リサイクル、生物多様性保全などが対象です。レポートでは政策動向や業界別のビジネス機会を提示し、事業創出に向けた戦略の構築を支援しています。企業の GX 参入に向けた実践的なヒントが得られる内容です。

【4/21・日経 XT】 ニュース解説：土木 米歳出削減でテキサス新幹線の補助金撤回、JR 東海「状況を注視」 安藤剛 日経クロステック／日経コンストラクション

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00142/02223/>

米国テキサス州で計画されている新幹線プロジェクトに対し、トランプ政権の歳出削減方針により米運輸省が約 90 億円の補助金を撤回しました。これに先立ち、日本の官民ファンド JOIN も支援を打ち切っており、JR 東海の新幹線システム輸出を目指したこの事業は、日米双方の主要支援を失って先行きが一層不透明となりました。JR 東海は今後の動向を注視すると述べています。

[目次へ](#)

□ 4/22 (火)

該当記事なし

[目次へ](#)

□ 4/23 (水)

【4/23・日経 XT】 ニュース 三菱ガス化学とパナが CO₂ を原料とするユリア樹脂、配線器具などに 松田 千穂 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/02425/>

三菱ガス化学とパナソニックは、CO₂ 由来メタノールを原料とするユリア樹脂を共同開発しました。これにより、従来のユリア樹脂に比べて CO₂ 排出量を約 20～30%削減できます。物性や成形条件は従来と同等で、既存設備のまま製造可能です。パナソニックは 2025 年度以降、この樹脂を使った配線器具の販売を目指しており、建築物のエンボディードカーボン削減にも貢献するとしています。

【4/23・日経 XT】 2025 年大阪・関西万博 大阪・関西万博に CO2 を固定した舗装、前田道路が展示施設に施工 筒井 爽人 日経クロステック／日経コンストラクション

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02484/042100132/>

前田道路は 2025 年大阪・関西万博で、CO2 を固定化した舗装技術を展示しています。建物解体由来の廃コンクリートと排ガス中の CO2 を反応させ、炭酸カルシウムとして固定する技術を路盤に適用。また、「CO2 を食べる自販機」を活用し、アスファルト混合物の石粉代替として CO2 固定材を使用しています。これにより道路 1 mあたり約 0.9kg の CO2 削減が可能です。技術の社会実装を見据え、他自治体への展開も視野に入れていきます。

[目次へ](#)

□ 4/24 (木)

【4/24・日経 XT】 建築専門記者の視点 結露問題は冬から夏へ拡大 気候変動で生じる新たな課題への対応に期待 桑原 豊 日経クロステック／日経アーキテクチャ

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/mag/na/18/00273/041600001/>

従来は冬の問題とされていた結露が、近年は夏にも発生する「夏型結露」として注目されています。気候変動により猛暑日や真夏日が増え、湿った外気が冷房された室内の壁や床に触れて水滴が生じる機会が増えました。住宅検査の現場では調査依頼が急増しており、カビ被害などの深刻化も指摘されています。こうした現象に対し、設計や施工段階からの対応が建築業界に求められており、気候変動に即した設計への転換が期待されています。

【4/24・日経 XT】 ニュース解説：建築・住宅 日建設計と DBJ が進める「ゼノバ」プロジェクト、初弾「日建ビル 1 号館」が完成 田口 由大 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/00154/02397/>

日建設計と DBJ が進める「ゼノバ」プロジェクトの第一弾として、築古の「日建ビル 1 号館」を ZEB Ready 仕様へ環境改修しました。断熱性向上、自然換気、高効率設備導入により CO2 排出量を約 58%削減し、3 年で追加費用を回収可能としています。改修により不動産価値も向上し、賃料も 20～30%上昇。今後はこの手法を全国へ広める方針です。

【4/24・日経 XT】 ニュース 年間 100 トンのグリーン水素を製造、住友ゴムが白河工場に導入 松田 千穂 ライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/news/24/02431/>

住友ゴム工業は、福島県の白河工場に年間最大 100 トンのグリーン水素を製造可能な P2G システムを導入し、2025 年 4 月から稼働を開始しました。再生可能エネルギーを活用して水を電気分解し得られる水素をボイラーに使用することで、CO₂排出の大幅削減を図ります。複数の電力源を組み合わせた安定運用により、年間約 1000 トンの CO₂削減が見込まれています。今後は国内外への展開も視野に入れていきます。

[目次へ](#)

□ 4/25 (金)

【4/25・日経 XT】 生成 AI で自分生産性向上 第 32 回 学術論文の検索や要点の把握に、AI をフル活用しよう 田代 祥吾 フリーランスライター

<https://xtech.nikkei.com/atcl/nxt/column/18/02737/041800033/>

生成 AI を活用した学術論文の検索や要点把握に関するサービスが注目されています。「SciSpace」や「Consensus」、「Paperguide」など、論文の検索や分析、要約作成を AI がサポートします。SciSpace では質問を入力すると、関連論文とその要約が表示され、Consensus は統計機能も搭載し、論文の概要を提示します。Paperguide は文献レビューや論文作成支援も行い、幅広い機能を提供します。これらのツールを使うことで、膨大な論文から目的に合った情報を効率的に抽出し、生産性向上が期待できます。

